

〔科目名〕 教養演習		〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目		
〔担当者〕 大森 史博				〔授業の方法〕 演習		
〔演習テーマ〕 哲学の諸問題の考察、哲学対話の試み						
〔演習内容〕 世界を見ることを捉えなおすこと。世界を生きることを捉えなおすこと。こうした思考をモチーフとして、関連する哲学の問題群、諸概念をめぐって考察し、探究的な対話をおこなう。手がかりとなる文献を丹念に読み解き、ともに対話をかさね、解釈し、考察を深めてゆくことが基本である。現代思想の大きなトピック、生の哲学、現象学、精神分析、実存主義、構造主義、等に関する論考のなかからテキストを選定し、精読する。参加者は、各々の経験を背景に、事象に対する自身の気づきや問いを捉えなおし、表現にもたらしすことを試みて欲しい。 哲学がおこなう表現は、同じひとつの世界に内属しつつ、その世界の見方を更新するための企てである。それゆえ、抽象的にみえる概念も、しかし同時に具体的な事象に根ざしている。この演習では、参加者との対話をとおして、そうした一つひとつの概念や言葉や表現に目を向け、われわれが生きる世界の具体的な経験のなかで捉えなおしていく。感覚を研ぎ澄ませて繊細なニュアンスに分け入ることに努めたい。						
〔科目の到達目標〕 とりあげる哲学者の思想、主要な概念、核心にある問いを知る。その問いかけ、思想や概念をふまえ、自らが考えるべき問いを吟味し、仕上げ、提起することができる。						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
		○	○			
〔前提条件〕 経験の事象に立ち戻り、探求的に思考し、他者に問いかけ、表現する努力をつづけること。						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) テキスト読解の事前準備、授業における質疑応答、レポート課題。評価の方法に関しては、とりあげる思想や概念および問題設定の正確な理解、考察の掘り下げ、言語的表現という三つの観点を基本として測る。						
〔教科書等〕 『哲学 原典資料集』山本巍ほか、東京大学出版会、1993年 テキストは参加者と協議して選定する。入手困難な資料はプリントを配布する。						
〔実務経歴〕 該当なし						
授業スケジュール						
時期	テーマと内容					
春学期 前半	最初に、現象学の哲学者メルロ＝ポンティの論考のなかからテキストを選定し、精読する予定である。その読解をふまえて質疑応答をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。					
春学期 後半	哲学系演習科目の他年次の履修者とともに合同の研究会をおこなう。参加者の各々は自分の問いを示して吟味し、相互に探求的な哲学対話を試みる。					

秋学期 前半	生の哲学、現象学、構造主義に関する論考をテキストとして、精読する。その読解をふまえて質疑応答や哲学対話をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。
秋学期 後半	ひきつづき、文献を精読し、質疑応答をおこない、考察を深める。一年間の講読をとおして焦点化してきた問いをめぐり、参加者の各々はレポートの作成を準備する。